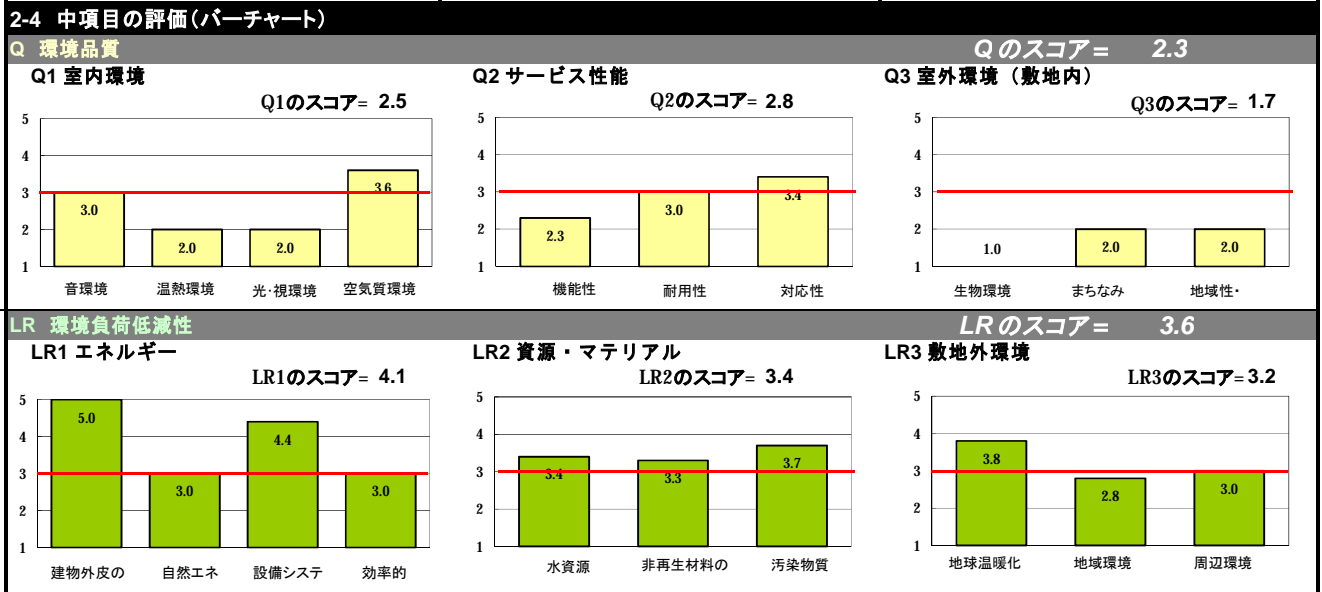
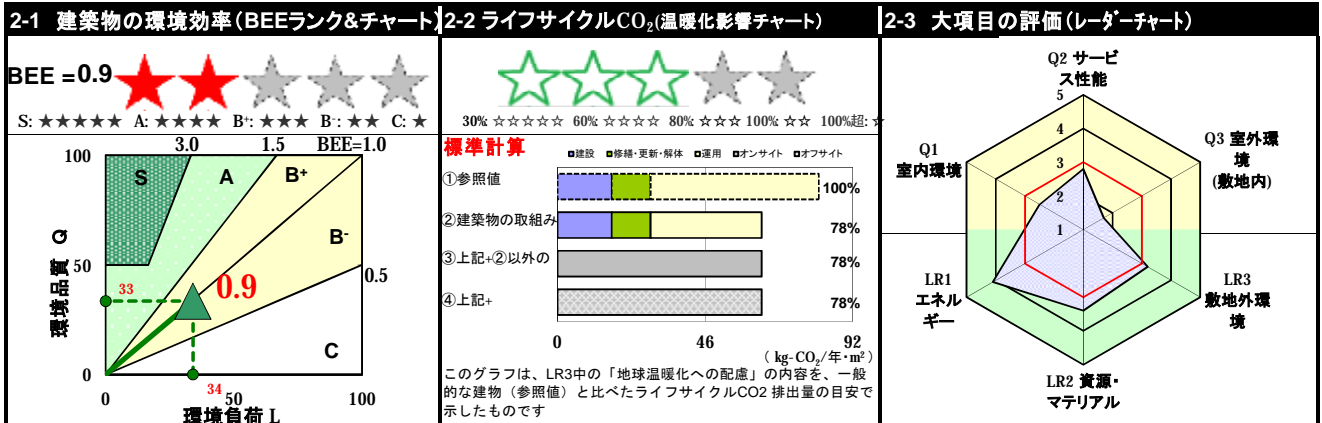


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)キョウデン大阪工場増築計画	階数	地上4F
建設地	大阪府泉大津市臨海町1丁目	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	500人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年11月22日
敷地面積	10,640 m ²	作成者	金田 義明
建築面積	1,291 m ²	確認日	2021年11月27日
延床面積	4,995 m ²	確認者	森 清隆



3 設計上の配慮事項		
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。広告物照明は行っていない。	その他 特になし。
Q1 室内環境	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー	BPI _m = 0.80 BEI _m = 0.66	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物に対して78%。
Q2 サービス性能	事務室の天井高2.7m以上。 事務所部分: 階高_3.7m以上。工場部分: 階高_3.9m以上。 0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	
LR2 資源・マテリアル	LGSとOAフロアを使用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R3-0098

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(株)キョウデン大阪工場増築計画						
	建設地	大阪府泉大津市臨海町1丁目						
	用途/区分	工場 事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B-	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.4	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							